

森林資源を活用した地域振興

－「よしの木の駅プロジェクト」と「吉野町森林セラピー」の事例－

奈良県立大学地域創造学部
准教授 大和 里美

1. 教育研究の背景と目的

奈良県は県の総面積の 76.9%を森林が占め、特に県南部の吉野地方では古くから杉や檜の人工施業が行われ、密植・多間伐による強度に富む良質な吉野材は、わが国を代表する木材ブランドとして広く全国に知られてきた。しかし近年、木造建築の減少などから吉野材のような国産高級材の需要は低迷し、林業を基幹産業としてきた吉野地方は、地域経済の縮小や人口減少・高齢化など多くの課題に直面している。

吉野地方の中心である吉野町は、1939 年（昭和 14 年）に吉野川沿いの丹治に吉野貯木場と呼ばれる原木市場が開設され、吉野地方で産出される木材の集積地として多くの人が集まるようになった。また桜の名所としても知られ、約 200 種 30,000 本の桜が密集する吉野山には毎年多くの観光客が訪れている。

一方で、1985 年に約 15,000 人であった人口は、2015 年には約 7,400 人と半数にまで減少し、高齢化率も 44.1%に達し、地域経済の中心であった林業市場の縮小と担い手の減少により山の管理が十分に行えない状況になっている。また観光客も観桜の時期に偏っており、桜の季節以外での観光客誘致が大きな課題となっている。林業と観光におけるこのような課題に対応するために実施されたのが、「よしの木の駅プロジェクト」と「吉野森林セラピー」である。

本教育研究では、「よしの木の駅プロジェクト」と「吉野町森林セラピー」についての学生による現地調査・実習と森林資源に関連する官民の活動についての地元関係者への聞き取り調査を実施し、学生の奈良県南部への理解や県の主要な産業である林業への理解を促すとともに、森林の保全・活用と産業振興及び地域のブランディングの視点から、森林資源を活用した地域振興について考察した。

2. 「よしの木の駅プロジェクト」を中心とした現地調査・実習

「よしの木の駅プロジェクト」は、「軽トラとチェーンソーで晩酌を」を合言葉に、高知県仁淀川町の NPO 法人土佐の森救援隊が始めた「木の駅プロジェクト」の仕組みを吉野町に導入したものである。この仕組みは、林地残材や間伐材を相場より若干高い価格で買

い取り、地元商店だけで使うことができる地域通貨で支払うことで、森林整備と地元商業の活性化を同時に達成することを目的としたもので、吉野町をはじめとした全国 40 地域（2018 年 2 月末現在）で実施されている（図 1）。

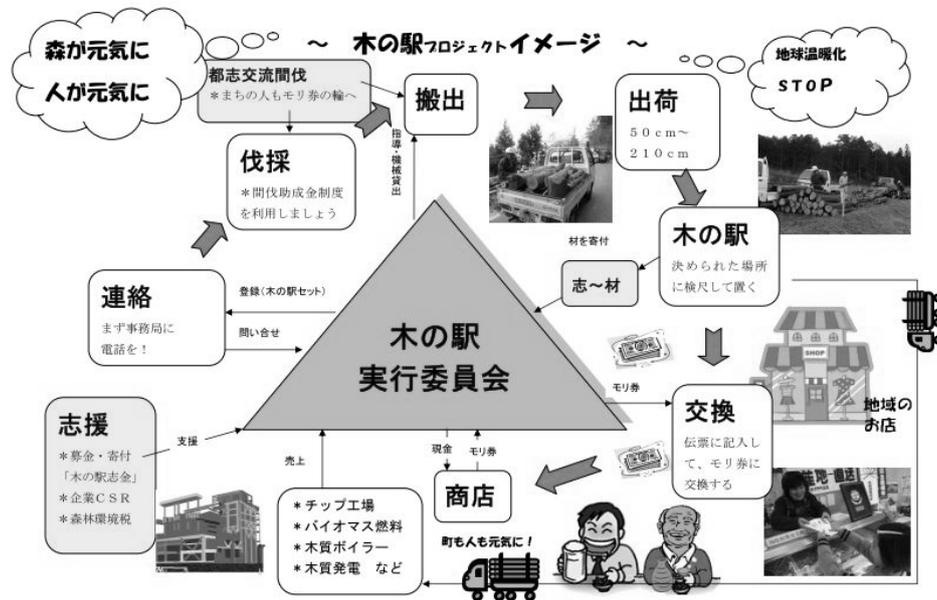


図 1 木の駅プロジェクトの仕組み

出典：木の駅プロジェクト HP (<http://kinoeki.org/> 2018 年 2 月 28 日取得)

2-1 現地調査・実習の実施

現地調査・実習には、筆者の基礎ゼミに所属する 1 年次生 12 名が参加した。現地訪問に先立ち、事前学習としてプロジェクトの中心メンバーで吉野町で代々林業を営む山守 7 代目の N 氏から吉野町の概要と現状、吉野町の歴史・林業、木の駅プロジェクトの概要などについて講義いただいた。また現地調査・実習後の授業では、各自の感想や気付いたことについて発表するとともにレポートを作成・提出した。



写真 1 吉野町関係者による事前学習

出典：2017 年 5 月 16 日 筆者撮影

【現地調査・実習の概要】

○実施日

- ・ 事前学習：2017年5月15日（火）10：40～12：10
- ・ 現地調査・実習：2017年5月20日（土）8：30～17：30
- ・ 事後学習：2017年5月23日（火）10：40～12：10

○参加者

- ・ 基礎ゼミ（大和ゼミ）1年次生 12名

○調査・実習内容

- ・ 森林セラピー実施場所の見学
- ・ よしの木の駅プロジェクト体験
- ・ 吉野貯木場、津風呂湖など町内見学と木が商品化されるまでの過程などについての説明
- ・ 吉野杉の家見学と町内で実施されているプロジェクトについての聞き取り
- ・ 吉野杉の家から大和上市駅までの散策（地域通貨取扱店など見学）

現地調査・実習の当日は、木の駅プロジェクトの実習だけでなく町内の林業や観光の拠点を見学し、地元有志で管理運営されている「吉野杉の家」で地域活動の中心メンバーである林業関係者3名から「吉野杉の家プロジェクト」などについてお話を伺った。



写真2 よしの木の駅プロジェクトの実習

出典：2017年5月20日 筆者撮影

2-2 調査と実習による学習の成果

以下は、事後学習として学生が提出したレポートからの抜粋である。

- ・ 吉野町は桜が有名だけど、春の桜だけではなくいつ訪れても新鮮な体験ができるのではないかと思った。
- ・ 地域振興を考える時はその地域に対する愛が一番大切なんだということが身をもって感じられた。これから自分の地元を見る目も変わってきそうだ。
- ・ 山からの出材はやった分だけ成果が出る、とてもやりがいのあるもので、私たちは最初こそ初めて行う出材、寸検作業に戸惑っていたが、しばらく作業を続けていると、

どんどん慣れて逞しい顔つきになっていたのもおもしろく感じられた。

- ・ 山の木が建材として使われるようになるまで多くの過程を経ることを初めて知った。
- ・ 今までこれほど林業について考えたことはなかった。林業に関わる様々な問題を知って、次に生かしていきたい。
- ・ 頂いた割り箸には、「吉野杉」と刻印がしてあり、「吉野ピンクル」という町のゆるキャラの載った紙で包まれている。この割り箸がもっと全国に流通したら吉野町の宣伝効果は期待できるのではと思った。
- ・ 森林セラピーの山林はまた来たいと思える場所であり、一度来た人がこの山林の良さを広め、観光客を増やしていくことが吉野町の経済活性化につながると思う。
- ・ 吉野町に行くとき聞いた時、何もない場所にわざわざ行くのかと思っていたが、行ってみるととても自然豊かな町で、景色もきれいで非常に驚かされた。
- ・ 「愛 学習机プロジェクト」は地域材の活用を継続できるプロジェクトになっている。自分が住んでいる地域でもこのような取り組みが行われていたら学校で勉強することがより楽しかったかもしれない。今後、このプロジェクトが全国的に広まると、子供たちの学習意欲も高まり良いと思う。
- ・ 今までほとんど知らなかった地域について知る楽しさを感じられ、よい体験になった。
- ・ 事前学習が不十分であったことやメモもそれほど取れていなかったため後から調べて思い出したところもあり多くの反省点があった。次回のフィールドワークでは、今回の反省を生かしてよりよいフィールドワークができるよう心掛けていきたい。
- ・ ヘリコプターで木材を運び出すのに1往復で約1万円かかるということや木材の値段から、木材価格の変移、その原因などについて調べ、自分なりに考えてみた。
- ・ 吉野杉の家はゲストハウスとして使用できるが、都会暮らしに慣れ過ぎ、木材の良さに気付いていない人、海外の人など様々な人から需要があると思うので、自分自身でできるSNSなどでの情報発信を積極的にして色々な人に知ってもらいたい。
- ・ フィールドワークによって体験したことすべてに興味を沸かした。またその体験、事柄に関連したことにも興味を沸かす。次のフィールドワークではもっと積極的に行動して、自分の興味、関心を増やしていきたい。
- ・ 今回のフィールドワークで吉野のことを知るまで、吉野が木のまちであるということは知らなかったが、森林セラピーや製材所の木を見て木を身近に感じる事ができ、木の魅力を知ることができた。
- ・ 都会に出たら人が多いのでつながりも多くなると思いがちだが、大切なのは深さだと思う。吉野の人と人のつながり、関係性は地域の良さであり、地域を活性化したいという想いの源になると思った。
- ・ 割り箸は森林破壊の原因のように思っていたが、そうではないのだということを目で見て実際に知ることができた。
- ・ 吉野に行って、今まで以上に木のことについて考えるようになった。吉野で学んだことを忘れず、木のことをこれからも考えていきたい。
- ・ 初めてのフィールドワークで行く前は分からないことも多く心配だったが、吉野林業の方々が優しく、楽しんで調査できた。

- ・ 林業の問題のみならず現在社会の問題点も考えさせられた充実した1日だった。
- ・ 人口減少、地域経済縮小は日本各地の問題でもある。吉野町の地域特色を生かした活発な取組みに関する情報の交換は他の地域にもエネルギーを与えるだろう。
- ・ 社会に対する無関心は私たちの生活を悪くする可能性に繋がる。日頃から社会問題に興味を持ち、問題意識を持って行動したい。

レポートからは、①吉野町に対する理解が深まったこと、②林業や木材の流通についての理解が促進されたこと、③自分の地元や日本全国の地域振興について考える機会となったこと、④フィールドワークに臨む姿勢についての学びとなったことなど、様々な成果が認められた。

3 「吉野町森林セラピー」実習による吉野町イメージの変化

「森林セラピー」とは、「癒しの効果や病気の予防効果が科学的な証拠に裏付けされた森林浴効果」（NPO 法人森林セラピーソサエティによる定義）で、都会との比較実験により効果が科学的に認められた森林の中で、インストラクターの指導の下にリラクゼーションやフィットネスなどの様々なプログラムを行うものである。森林セラピー活動の支援と普及のために設立された「NPO 法人森林セラピーソサエティ」によって認定された「森林セラピー基地」と「森林セラピーロード」は、北海道から沖縄までの62地域（2018年2月末現在）にのぼり、吉野町は2012年（平成24年）3月に奈良県内では初めて認定を受け、一般社団法人吉野ビジターズビューローが運営している。

「吉野町森林セラピー」は、やや健脚向けの「吉野・宮滝・万葉コース」と高低差が少なく車椅子も使用可能な「神仙峡・龍門の里コース」があり、地元住民を中心としたボランティアの森林インストラクターが案内・指導を行っている。

3-1 実習の概要

「吉野町森林セラピー」の実習は、2017年7月8日に観光創造commons 2年次生を対象に実施した。当日は8時30分に近鉄奈良駅から吉野運動公園までバスで移動し、吉野運動公園で案内・指導いただく森林インストラクターと合流、その後4班に分かれて「神仙峡・龍門の里コース」を回り17時30分に近鉄奈良駅に帰着した。参加者は33名で、うち4名はセラピーの身体的な効果を測るための調査に協力した。

実習に先立ち6月29日のゼミの時間を使い、吉野町の概要と現状、森林セラピーの概要についての事前学習と吉野についてのアンケート調査を行った。また実習終了後の7月20日のゼミでは、①ルートの整備状況や環境への配慮など気付いたことと改善点、②森林セラピーを実施することによる地域のメリットや効用、③イベント等セラピー基地の活用方法、④地元への経済波及効果を高めるための方策、についてグループ・ディスカッションと発表を行い、ディスカッションを通じて出た意見を吉野ビジターズビューローに提案した。また吉野ビジターズビューローから依頼のあった森林セラピーの満足度に関する調査票と事前学習時のアンケート調査と対応した吉野のイメージの変化についての調査票への回答を行った。

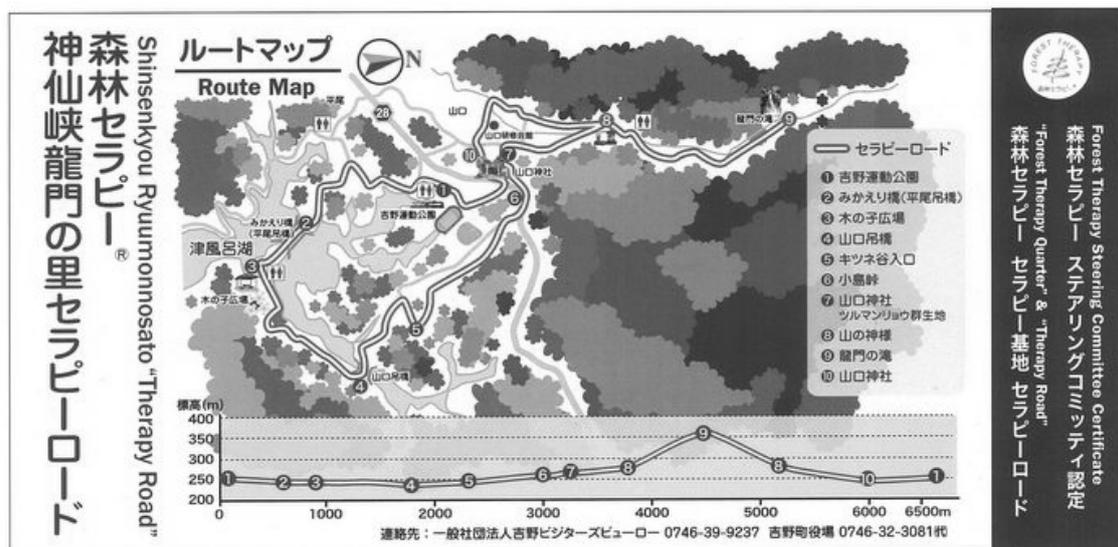


図2 神仙峡・龍門の里コースのルートマップ

出典：吉野町森林セラピーHP (<http://yoshino-kankou.jp/therapy/pg197.html> 2018年2月18日取得)

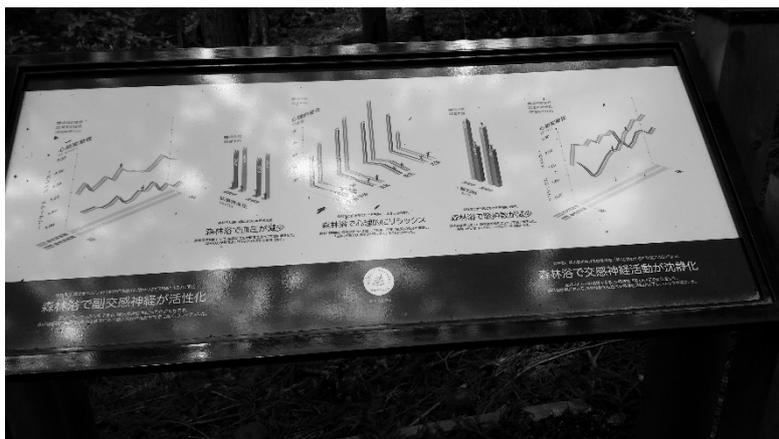


写真2 森林セラピーのコースに設置された効果の検証結果を記したボード

出典：2017年5月20日 筆者撮影

3-2 実習前後のアンケート調査の内容と結果

3-2-1 事前アンケート調査の項目と結果

【質問項目】

1. 訪問経験：吉野に行ったことが、ある／ない
2. シンボル・イメージ：吉野と聞いて頭に浮かぶ語を1つ書きなさい。
3. 知識：吉野について知っていることをすべて書きなさい（箇条書きで）。
4. 一般イメージ：吉野のイメージについて記述しなさい。

授業に参加していた36名の学生が回答した。訪問経験については、9名が「あり」、27

名が「なし」と答えた。シンボル・イメージとしては、桜（19名）が最も多く、杉（4名）、林業（2名）、自然（2名）、森・森林（2名）と続き、吉野川、吉野くず、山、近鉄南大阪線の終着駅という回答が各1名あった。また知識に関する回答では、やはり桜や吉野杉など自然に関するものが多く、観光や歴史に関する回答も見られた（表1）。

表1 吉野に関する知識

桜の名所	紅葉が見られる	緑が多い	吉野川	春・秋の風景が綺麗
吉野杉	林業がさかん	お箸の生産	くずが有名	柿
世界遺産	国立公園	ロープウェイがある	古民家を改装して行っている観光	観光地
和歌に詠まれている	有名な寺院・神社がある	南朝があった場所	奈良県南部	

また吉野に関する一般イメージも自然に関連してポジティブなものが多かったが、生活の不便さなどについてネガティブなイメージを持っている学生もいた（表2）。

表2 吉野に関する一般イメージ

自然が多く春夏秋冬様々な風景を見ることができる	とてもリラックスできる良い印象を持っている
平安時代から和歌にもよく詠まれる由緒正しき土地	「吉野の桜」と言えば他府県からも花見客が訪れる
山と川の景色が美しい山里	落ち着いている雰囲気がある
近鉄南大阪線の終点であるので大阪市内から離れた田舎	田んぼなどが広がっていきそうな田舎
良質な木材を活かした吉野林業が有名	のどかで過ごしやすい
澄んだ空気	水がきれい
自然が多く春には桜が咲き、頂上付近から見ると辺り一面ピンク色でとても美しい	おでかけで行くような所
奈良を代表する観光地の1つ	日本人だけでなく外国人にも人気がある
土地を守る住人は昔ながらの頭の堅いイメージ	田舎ではあるが、多くの観光客が訪れる有名なスポット
アクセスが少し悪い	奈良市内から遠い
山奥にあって行くのに時間がかかりそう	少し交通の面で不便
人口が少ない	商業施設などが無さそう

注) 色が付いているのはネガティブなイメージ。

3-2-2 事後アンケート調査の項目と結果

【質問項目】

1. イメージ変化：吉野のイメージは、変わった／変わらない
2. 変化の内容：変わった人はどのようなイメージになったかを述べなさい。

3. 感想：吉野町と森林セラピーについての感想を書きなさい

回答者は31名で、16名がイメージ変化が「あり」、15名が「なし」という回答であった。「あり」と回答した学生のイメージ変化の内容を記したのが表3である。

表3 イメージ変化の内容

もっと神聖な場所と思っていた(少し残念)。	いろんな歴史をもっている。奈良の有名なものが多い。
森の中に史跡があって歴史があることで歴史的なイメージになった。	今までは桜のみの印象しかなかったから、夏に行くのが初めてだった。想像以上に森の中も歩道も整備されていた。
林業が盛んというイメージが強かったが、それを生かした他の産業にも取り組んでおられるということ	思っていたよりも、さらに自然豊かな場所でした。
あんな大きな施設があることを知らなかった。釣りなども楽しめる所でイメージが変わった。	桜の季節(春)のイメージしかなかったが、他の季節も楽しめるということがわかった。
自然だけでなく歴史もあるのだと感じた。	
思っていた以上に自然豊かだった。	森林のイメージが強すぎて、それ以外の情報をよく知らなかったのでもういかに森林がどう影響するのか等細かく知れたのでイメージが良くなった。
自然が豊富だったが、ほどよく整備され美しい自然であった。	
もっと田舎だと思っていたが、住宅もあり思っていたよりも人の暮らしがあった。	ロープウェイのある近鉄吉野駅周辺を前回は訪れたから。森や広大な湖などがあって、自然豊かなイメージが強まった。
桜のイメージが強かったが、ハンモックなどを使って癒されることのできるスポットであると分かった。	行く前は、もっと険しい自然だと思っていたが、田園風景などのんびりした自然があるというイメージに変わった。

注) 色が付いているのはネガティブなイメージ変化。

吉野町を実際に訪れ森林セラピーを体験したことで、ほとんどの学生は吉野町への理解が深まり、イメージが拡がり良くなっていることがわかる。ネガティブな変化が認められた学生は、吉野の歴史についてある程度の知識を持っており、特に宗教に関する知識から神聖な場所というイメージが強かったため、寺院や史跡ではなく実際の生活の場である町内の住宅やセラピーのコースとして整備された森林を見たことで事前のイメージとの差異が生じたものと思われる。

感想を尋ねた質問に関しても「桜の季節以外も楽しめることが分かった」、「もっと険しい自然だと思っていたが、のんびりした自然があった」、「思った以上に自然が豊かだった」、「もっと田舎だと思っていたが、住宅もあり思っていたよりも人の暮らしがあった」、「自然だけでなく歴史もあるのだと感じた」、「釣りなども楽しめる所でイメージが変わった」など、吉野町の多様な側面を知り理解が深まると同時に、イメージの拡がりが見られた。

また森林セラピーに対する感想では、「自然の涼しさというのを肌で感じた」、「木がゆれる音や小川の流れる音など、とても落ち着く空間だった」、「森林の重要性に改めて気付かされた」、「森に入るだけであんなに体感温度が違うことを初めて知った」、「自然の雄大さを身にしみて感じた」、「歩くので疲労感が後の方に出るのではないかと考えていたが、リラックスして体験でき、そんなに疲れなかった」、「目の疲れがとれていくように感じた」、「森林セラピーと山登りは何が違うのだろうかと思っていたが、行ってみると森の中は歩くが、ちゃんと整えられた道になっていて、あまり疲れなかった」など、セラピーの

効果を感じるとともに森林や自然の持つ力や重要性についての気づきがあったことが伺える。

4 地元関係者への聞き取り調査

2017年4月から8月に吉野町、吉野町商工会、住民活動の中心メンバーに対して吉野町での木や木材などの森林資源に関連した活動と吉野町の地域空間ブランディングについての聞き取り調査を行った。吉野町は、町政60周年を迎えた2016年11月に「木のまち吉野未来宣言」とその実現に向けた「木育4ヶ条」を発表し、町内では森林資源に関連した様々な活動が行われている（表4）。

表4 森林資源を活用した主な活動

プロジェクト名	開始年	運営組織	概要
木桶仕込みプロジェクト	2010年	吉野ウッドプロダクト・木のある暮らしを物語る協議会	町内にある蔵元で60年ぶりの木桶仕込みを復活し、製造した酒「百年杉」を販売。
吉野森林セラピー	2012年	吉野ビジターズビューロー	インストラクターの指導のもと森林の中で様々なプログラムを行うことでストレス軽減や病気予防効果が期待できる。「吉野宮滝・万葉コース」と「神仙峡・龍門の里コース」がある。
吉野貯木まちあるき	2013年	Re:吉野と暮らす会	ガイドの案内で吉野貯木を歩く。木工ワークショップなどのイベントも開催。
よしの木の駅プロジェクト	2014年	よしの木の駅実行委員会	林地残材を地域通貨で買い取ることで、森林整備と地域経済活性化を達成する事業。
愛・学習机プロジェクト	2014年	Re:吉野と暮らす会	中学3年間使用する机を使用する子供達自身が製作し、卒業時には寄せ書きした天板を持ち帰る。

町内の活動に積極的に関わっている中心メンバーは、「木」によって互いに繋がっており、「木」が地域経済を支える資源としてだけでなく、地域の交流や情報共有を促す重要な要素となっていた。またメンバーは地域の愛着が強いだけでなく、「吉野」ブランドに対する誇りとブランドを大切に育てるという意識も強かった。一般的には、桜や森林、山など目に見える自然が吉野のイメージとして挙げられるが、古くから吉野に住み林業や和紙などの伝統的な産業を受け継いできた住民が持つ吉野町のブランド・イメージは、目には見えないが吉野町だけが有する歴史・文化や信仰に深く結びついていた。

5 まとめ

本教育研究の成果としては、まず参加学生の教育的な効果が挙げられる。本学への入学後日が浅く、これから大学での学習を本格化する1年次生が、「よしの木の駅プロジェクト」の調査・実習を通じて県南部や林業への理解を深め、森林資源の保全や地域振興について身近な問題として考える契機となったことやフィールドワークの方法について学んだことは本教育研究の大きな成果であった。「吉野町森林セラピー」に参加した2年次生についても、奈良県南部への理解が深まっただけでなく、保全と活用の視点から地域資源について考え、観光を行うことによって環境を破壊するのではなく、観光を行うことで地域の自然環境の保全に繋げることもできるという事例に接したことは貴重な経験であった。また、実習に参加した学生のうち2名は、木工や吉野町の木を活用したイベント活動などに関心をもち、3月に地域おこし協力隊が開いた工房を訪ねて木工で使用する道具などに

ついて説明を受けた。両名は、今後も吉野町を訪れて継続した指導を受ける予定である。

なお、森林資源を活用した活動が吉野町の地域活性化や地域振興にとってどのような効果が期待できるかや吉野町の地域空間ブランドの構造とブランディングにおける課題など本研究の成果については、2017年度に開催された日本都市学会全国大会で発表した。また研究結果の詳細については、別稿にて明らかにする予定である。